No.11（ＧＢＣ）

２０２２年３月１３日（第２主日）

第一礼拝次第

メッセージ：郭永東牧師

前　奏		
頌　栄	５４０	会衆
主の祈り		〃
プレイズ	「恵み」 「主の山に備えあり」	会衆
聖書朗読	使徒言行録６：1-7	司会
祈　祷	（新約聖書ｐ223）	〃
賛　美	新生２１	会衆
メッセージ	「監督と七人の執事」	牧師
祈　祷		〃
賛　美	新生５０４	会衆
献　金		
報　告		司会
頌　栄	新生６７２b	会衆
祝　祷		牧師

♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～

第二礼拝次第

メッセージ：渡真利彦文牧師

聖書：ダニエル書 6:1～29（旧約聖書 p1391）
ﾒｯｾｰｼﾞ：「獅子の穴のダニエル」
ﾌﾟﾚｲｽ：「賛美の時」「主イェス様の恵み」
賛　美：新生２１「栄光と賛美を」
　　　　新生 515「静けき河の岸辺を」

♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～

ファミリー礼拝

メッセージ：渡真利千佳子姉

聖　書：マルコ 14：10～26
ﾒｯｾｰｼﾞ：「裏切る者と共に」

＜巻頭言＞

牧師　郭永東

　第一次世界大戦が勃発して 100 年が経ちましたが、未だ世界のあらゆる所で紛争が起こっています。なぜ人間は戦争を止めることができないのでしょうか。殆どの戦争は人ではなく、政府によって始まります。また、戦争の原因は殆ど資源や土地を奪おうとする欲望、あるいは単なる自分の影響力を拡大しようとする野望です。つまり、戦争の表面的な理由はありますが、その中にはいつも堕落した 罪の本姓を持つ弱い人間の欲から始まるのです。

　平和の都という意味を持つエルサレムは、その名が無意味に感じる程今まで多くの戦争と戦いの中心にあり、今もそうです。イエス様はこのようなことが世の終わりの時に起こると言われ、これが災いの始まりだと言われました。

民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に地震があり、飢饉が起こる。これらは産みの苦しみの始まりである。（マルコ 13：8）

　すべてのことに始まりがあるなら、当然その終わりもあります。いつこの悲劇的な戦争が止まり、すべての人が平和に暮らすことができるのでしょうか。

主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない。（イザヤ 2：4）

　イザヤの預言を通して剣と槍を農機具にすることともはや戦うことを学ばないと語られていますが、すべては神様の判断と判決の後に実現するということを知ることができます。ウクライナやミャンマーに一刻も早く悲劇的なことが終息することと共に神の国が神の時に神のみ旨によって実現するために祈ろうではありませんか。